

「新潟中越地震」に対する 日赤徳島県支部の救護活動について

徳島県では平成 16 年台風 23 号災害に対する救援活動が終了した平成 16 年 11 月 11 日（木）から 15 日（月）にかけて、医療救護班とこころのケア要員併せて 11 名を新潟県小千谷市の小千谷小学校救護所に派遣しました。

医療救護班は医師 1 名・看護師 3 名・薬剤師 1 名・救護主事 4 名（内 2 名は連絡調整員）で構成され、24 時間体制で小千谷小学校救護所での診療、並びに体育館や校庭テントで避難所生活している被災者への巡回診療を行いました。



出発式で十川事務局長から激励される



前任の高知県支部との引継式



ERU(緊急仮設診療所)での診療の様子



校庭のテントで避難生活をする



避難所を巡回診療する様子



地図を片手にこころのケアに向かう看護師ら

発災から 20 日経過していたこともあり、街の状態は少しずつ落ち着きを取り戻していましたが、寒さが一段と厳しくなる中、避難生活を余儀なくされている被災者の健康状態が気がかりでした。

診察に訪れる多くの方は、風邪による頭痛やのどの痛み、疲労や不眠によるめまいや体調不良などを訴えるなど避難生活の厳しさを物語っていました。

救護班員らは、そのような被災者の不安を取り除き、少しでも健康的な日常生活が営めるように、巡回診療の際にうがい薬を配布したり、時には被災者の悩みや不安を受け止めたりと、救護班全員が一丸となってこころのケアにも十分配慮した活動を行いました。

またこころのケア要員（看護師 2 名）は地図を片手に徒歩で市内を巡回し、道行く被災者に声をかけながら、5 日間にわたり心理的なケアを行いました。

日本赤十字社徳島県支部救護班活動状況

■医療救護班

現地活動期間 11月12日（金）～14日（日）

診療患者数 54名

■こころのケアチーム

現地活動期間 11月12日（金）～16日（火）

こころのケア数 65名